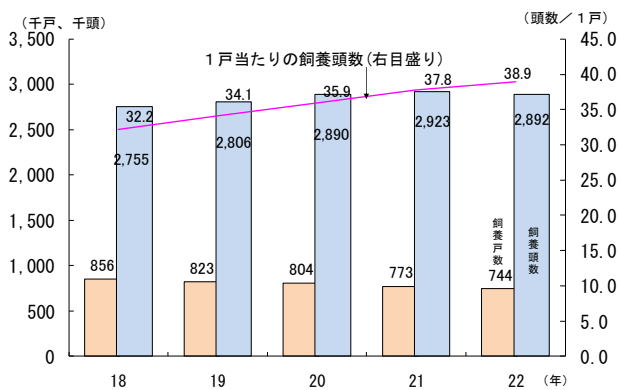


# 牛肉

## ◆飼養動向

22年2月の肉用牛の飼養頭数は、交雑種の減少により289万頭（▲1.1%）

図1 肉用牛の飼養戸数および飼養頭数



資料：農林水産省「畜産統計」

注：各年2月1日現在

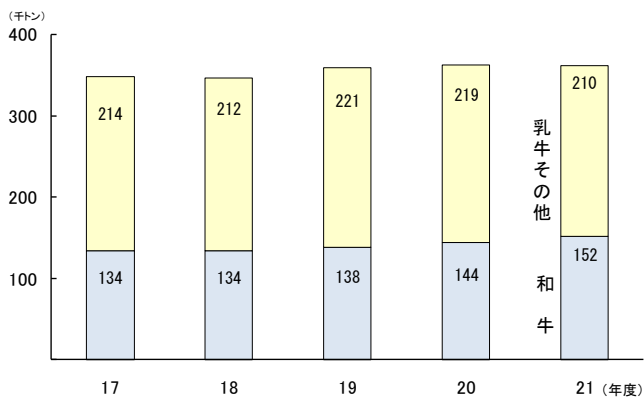
肉用牛の飼養動向を見ると、肉用種は18年まで前年並みの水準であったが、19年以降は増加傾向で推移している。交雑種を除く乳用種は17年以降、減少傾向であったが、6年ぶりに増加に転じた。交雑種は、18年以降増加傾向で推移していたが、22年は前年よりかなり大きく減少した。この結果、22年の肉用牛の総飼養頭数は、2,892千頭（▲1.1%）と6年ぶりの前年割れとなった。

飼養戸数は、高齢化による廃業により、22年には744千戸（▲3.8%）となった。一方、1戸当たりの飼養頭数は38.9頭（5.3%）と規模拡大が着実に進んでいる（図1）。

## ◆生産

21年度の生産量は、36万2千トン（▲0.3%）と3年ぶりに減少

図2 牛肉の生産量



資料：農林水産省「食肉流通統計」

注1：部分肉ベース、注2：乳牛その他には、乳牛の他外国牛等を含む

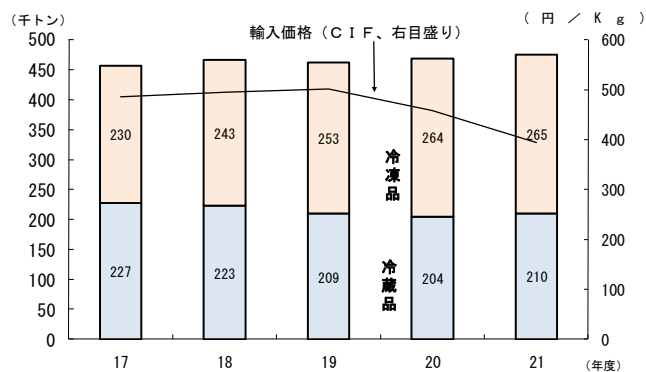
牛肉の生産量は、3年ぶりに減少し362千トン（▲0.3%）となった。このうち交雑種は、乳用牛への黒毛和種の交配比率（延べ人工授精頭数に占める黒毛和種授精牛の割合）が19年まで上昇したことから生産量も増加し、21年度は、98千トン（5.1%）となった。加えて、和牛も152千トン（5.5%）の増加となった（図2）。

しかし、乳牛が181千トン（▲14.1%）と減少幅が大きかったことから、全体で前年度をわずかに下回った。

◆輸入

21年度の輸入量は、47万5千トン（1.2%）と前年をわずかに上回る

図3 牛肉の輸入量

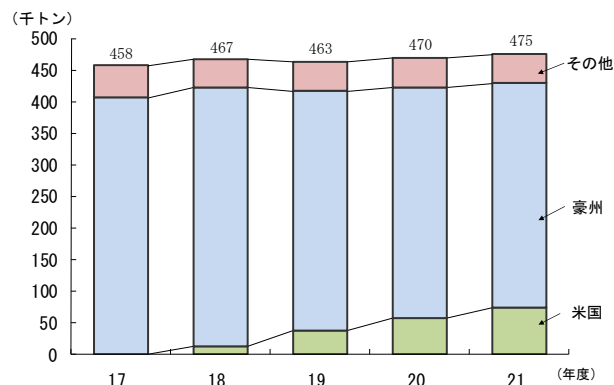


資料：財務省「貿易統計」  
 注1：冷凍品にはかず肉等を含む。  
 2：部分肉ベース

牛肉の輸入量は、17年度以降は19年度を除いて増加傾向で推移し、21年度は米国産の大幅増加などから475,426トン（1.2%）とわずかに増加した（図3）。

BSEの発生による一時停止から再開された後は増加傾向にあり、21年度は73,823トン（30.9%）と前年度を大幅に上回った。このため、輸入牛肉の約8割を占める豪州産は

図4 牛肉の国別輸入量



資料：財務省「貿易統計」  
 注：部分肉ベース

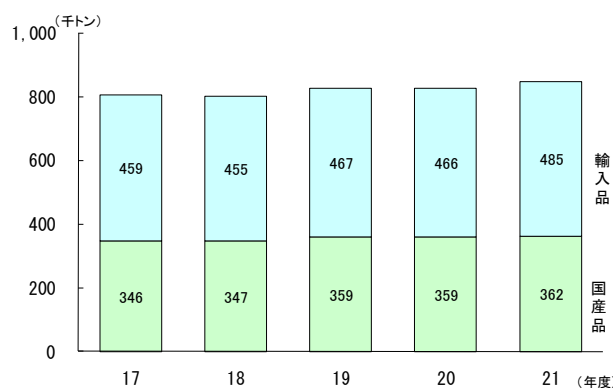
355,488トン（▲2.8%）、ニュージーランド産についても26,940トン（▲4.4%）と、ともに3年連続で前年を下回った。一方、カナダなどその他の国は、19年度以降増加傾向で推移していたが、21年度は減少に転じ9,526トン（▲9.3%）と前年をかなりの程度下回った（図4）。

◆消費

21年度の推定出回り量は、輸入品が増加も国産品は前年並み、合計で84万6千トン（2.6%）

推定出回り

図5 牛肉の推定出回り量

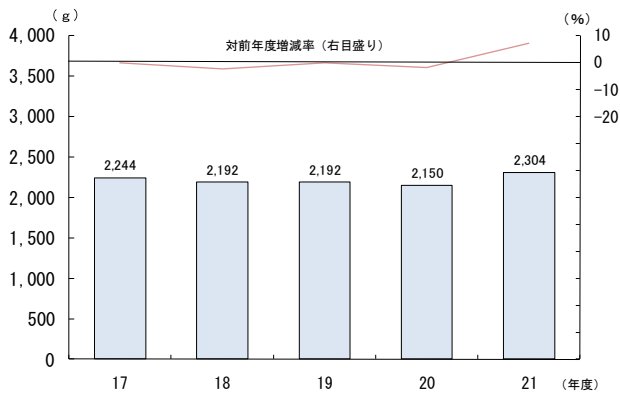


資料：農林水産省「食肉流通統計」,財務省「貿易統計」,農畜産業振興機構調べ  
 注：部分肉ベース

牛肉の推定出回り量は、19年度は米国産牛肉の輸入再開などを背景に増加に転じた。19年度以降は増加傾向で推移し、21年度は84万6千トン（2.6%）と3年連続で前年度をわずかに上回った（図5）。

消費

図6 牛肉の家計消費量(1人当たり)



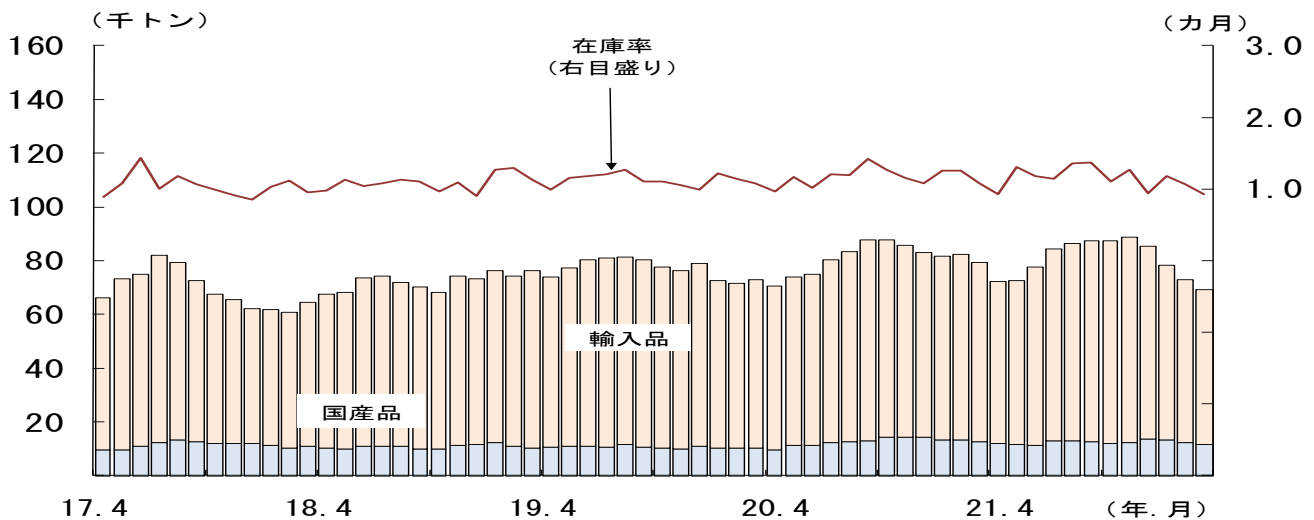
資料：総務省「家計調査報告」

牛肉需要量の3割を占める家計消費は、15年度以降おおむね減少傾向で推移し、20年度は景気の後退に伴う消費の減退などから、前年度をわずかに下回った。しかし、21年度は、引き続き景気の低迷による低価格志向などを反映して小売価格が低下したため、牛肉の値ごろ感が高まったこと、内食化が進展し、消費者が購入する機会が増えたことなどにより、2,304グラム(7.2%)と前年度をかなりの程度上回った(図6)。

◆在庫

21年度期末在庫は、国産品、輸入品とも減少

図7 牛肉の推定期末在庫量と在庫率



資料：農畜産業振興機構調べ

注1：在庫率＝在庫量／推定出回り量

2：部分肉ベース

期末在庫量は、17年度以降は増加傾向で推移し、19年度にはいったん下回ったものの、20年度は再び増加に転じ79,254トン(8.8%)となった。21年度は輸入品の出回りが増加し在庫が減少したことから、全体では69,071トン(▲12.8%)と前年度をかなりの程度下回った。

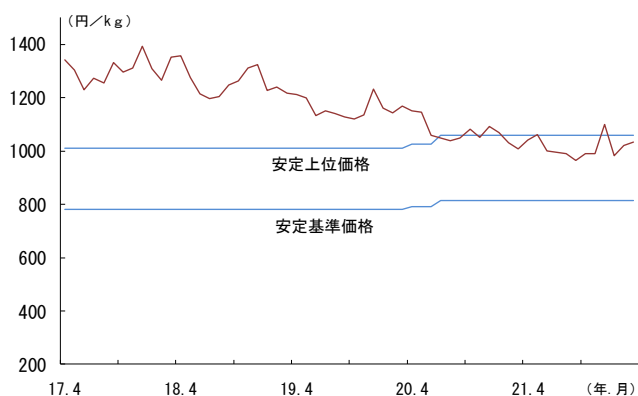
また、低価格志向に伴い販売がおもわしくないロイン系が増加しているともいわれており、部位別の在庫バランスがかなり崩れている(図7)。

前年度末に比べ、輸入品は▲13.7%、国産品は▲8.3%とともに減少し、在庫率は約0.91カ月となった。

## ◆国産枝肉卸売価格(東京・省令)

21年度の卸売価格は、1,015円/kg(▲5.1%、東京・省令)と4年連続前年度を下回る

図8 牛肉の卸売価格(東京・省令価格)

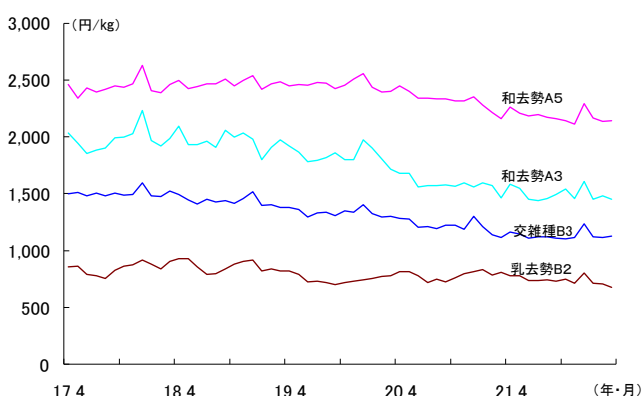


資料：農林水産省「食肉流通統計」

注1：省令規格は、去勢牛B2とB3の加重平均

注2：消費税を含む

図9 牛肉の卸売価格(東京・種別)



資料：農林水産省「食肉流通統計」

注：消費税を含む

## 省令規格

牛枝肉卸売価格(東京・省令)は、18年度以降低下傾向で推移し、21年度も景気低迷による消費者の低価格志向に伴い、比較的安価な輸入牛肉や豚肉などに需要がシフトしたことなどにより、1,015円/kg(▲5.1%)と4年連続で前年を下回った。

## 和牛

和牛(去勢)の卸売価格は、15年度以降は、と畜頭数の減少による生産減の影響もあり堅調に推移していたが、19年度には下落に転じた。20年度は、消費低迷も加わりA5が2,318円/kg(▲5.9%)、A3が1,584円(▲13.7%)といずれも低下し、21年度においても2,186円/kg(▲5.7%)、1,500円/kg(▲5.3%)と引き続き前年度を下回った。

## 乳牛

乳牛(乳用種去勢牛)の卸売価格は、19年度は消費の減少などから19年度以降前年割れが続き、21年度はB3が824円/kg(▲3.3%)、B2が742円/kg(▲4.9%)と、前年度をやや下回った。

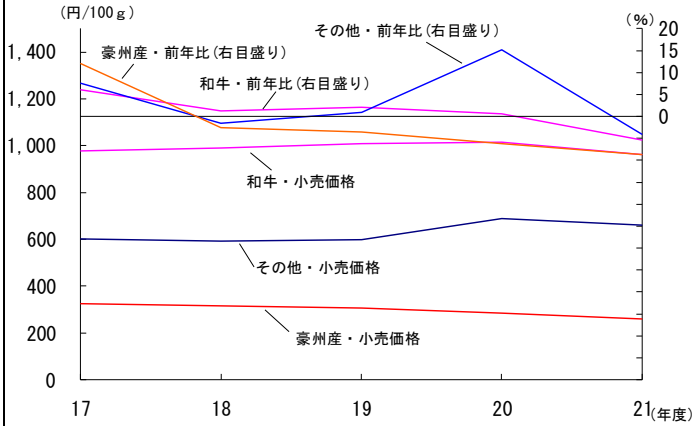
## 交雑種

交雑種の卸売価格は、と畜頭数の増加により18年度以降前年を下回って推移し、21年度においても交雑種去勢B3が1,133円/kg(▲6.9%)、B2が917円/kg(▲5.8%)といずれも前年度をかなりの程度下回った。

◆小売価格

和牛、国産（その他）および輸入品も低下

図10 牛肉の小売価格(サーロイン・特売価格)



資料：農畜産業振興機構調べ  
注：消費税は含まない。

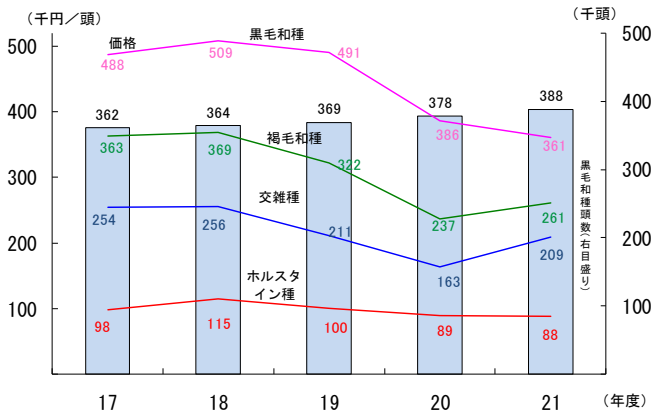
和牛の小売価格(サーロイン、特売価格)は米国産輸入牛肉の出回りが減少した16年度以降堅調に推移し、20年度は1,016円/100g(0.6%)となった。しかし、21年度は、低価格志向により高級な部位が敬遠されたことから962円/100g(▲5.3%)と14年以降初めて前年割れとなった。また、国産(交雑種)も661円/100g(▲4.1%)と値を下げた。

また、豪州産は21年度は、米国産との競合や円高で推移する為替相場の影響などから261円/100g(▲8.7%)と前年度をかなりの程度下回った(図10)。

◆肉用子牛

肉用子牛価格は、交雑種は取引頭数の減少などから大幅に上昇

図11 肉用子牛の市場取引価格と頭数(黒毛和種)



資料：農畜産業振興機構  
注：消費税を含む。

黒毛和種

黒毛和種の取引価格は、15年度以降堅調に推移し、18年度には過去10年間で最も高い水準を記録した。しかし、19年度以降は、枝肉卸売価格の低下などにより下落傾向となり、21年度は36万1千円(▲6.5%)と前年度をかなりの程度下回った。取引頭数は、17年度以降増加傾向で推移し、21年度は388,234頭(2.7%)と前年度をわずかに上回った。

褐毛和種

褐毛和種の取引価格は、19年度以降前年を下回って推移し、20年度は23万7千円(▲26.4%)とBSE発生時(13年度)の水準を下回ることとなった。しかし、21年度は上昇に転じ、26万1千円(10.0%)と前年をかなりの程度上回った。

### ホルスタイン種

ホルスタイン種の取引価格は、19年度以降、枝肉卸売価格の低下などから下落し、21年度は8万8千円(▲1.2%)と3年連続で前年度を下回った。

### 交雑種(F1)

交雑種(F1)の取引価格は、19年度以降前年を下回って推移し、20年度は16万3千円(▲22.7%)と前年を大幅に下回った。しかし、21年度は、取引頭数の減少と需要の増加などから20万9千円(27.6%)と大幅に上昇し、3年ぶりに前年度を上回った。